



かがやく瞳

令和4年度

2022. 9. 29

No. 23

学校の営みを見ていただきました

～市教育委員会訪問 特別支援教育アドバイザー訪問 指導主事訪問～

前期まとめの時期、先週から今週にかけて3つの訪問があり、これまでの学校の営みを見ていただきました。

〈市教育委員会訪問〉では、全学級の授業を見て、感想・助言をいただきました。感想では、子どもたちが落ち着いて学習に集中していることを第一に話されました。その元になっていることとして、「先生たちが目立っていない。」ということが挙げられ、子どもたちが自然体で意欲的に授業や活動に臨む姿に結びついているという評価をいただきました。助言として、外国語教育の一層の充実のため外部機関との連携を図ることと授業づくりに「間」を意識してほしいことが挙げられました。今後、いただいた助言を基に課題の改善を図っていきたいと思います。

〈特別支援教育アドバイザー訪問〉も、全学級の授業を見ていただきました。アドバイザーの先生は、本校を3年続けて見てくださった元本校の校長先生でした。「一人一人が学習に向かい、できることが増えています。」と話されました。どの学級でも板書が分かりやすく構成・整理されていること、タブレットなどを使って考えやすいようにしていることなどの配慮が、全校揃って行われていることが成果に繋がっていると、評価いただきました。

〈特別支援教育指導主事訪問〉では、ゆうゆう学級の授業を参観し、特別支援教育の視点を生かした授業づくりについて研修しました。授業は漢字を使って文を作る内容でした。一人一人に合った学習ができる配慮が随所に見られ、参考になることが多くありました。研修には他校から5人の先生方が参加し、教室が狭いため隣の家庭科室でリモート参観しました。



【リモートで授業参観】

3つの訪問でいただいた感想やご意見・ご助言で、これまでの私たちの歩みを客観的にふり返ることができました。保護者の皆様からいただいたアンケート等の結果と合わせて前期の歩みをふり返って、後期さらに子どもたちの3つの瞳が輝くよう準備していきたいと思います。

ちょっと

特別支援教育の訪問と研修を2日に渡って行いました。特別支援教育は本校にとって大切な視点を与えてくれる分野と考えています。本校の特別支援教育への考え方についてお話ししたいと思います。

点字ブロック、多目的トイレ、自動ドア、これらは全て何らかの不自由を抱える人たちの不自由さを解消するためのものです。しかし、健常者にも便利さを与えてくれます。特別な人のための物やことが、他の人にとっても有効なことがあります。

特別支援教育は、何らかの困難を抱えている子とその持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものです。本校ではその考え方をどの教室の教育活動にも取り入れようと取り組んでいます。

例えば、言葉で理解することが難しい子がいるとします。本校の先生方は、特別支援教育の視点から説明の仕方を工夫します。画像や動画を使って説明したり、書いて見える化して説明したりします。一度に全部説明せず、一つ指示して行動させ、できたらほめて、また次の一つを指示するという方法も取ります。どの方法も困難のある子にもない子にも優しい方法です。

このように特別支援教育の視点を生かすと、だれにとっても分かりやすい優しい指導・支援ができるようになります。そのような指導・支援ができることを目指して、本校では特別支援教育を大切にして研修しています。特別支援教育は特別ではないと捉えています。